

科目名	発達心理学		担当教員	高村 和代	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2EFE507
期待される学修成果	子ども理解 学校と社会				
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	様々な視点から、人間の生涯発達を理解する。また、特に幼児期から青年期にかけての子供たちの発達特徴の理解を深める。さらに発達の知見に基づいて、教師として望ましい幼児・児童・生徒との関わりについて、考察することができる。				
授業の概要	まずはじめに、発達心理学における様々な理論を紹介していく。そしてその中から乳幼児期から青年期に関わる発達特徴を取り上げ、児童期の子供たちの発達特徴を具体的に深めていく。さらに、現在の教育問題を考慮し、学校現場で生じやすい問題を取り上げ、発達の知見に基づきよりよい教育環境のあり方について問題提起していく。				

授業計画	
第1回	発達心理学と教育（これからの授業の進め方、発達心理学とは）
第2回	乳児期から青年期の発達の位置づけ
第3回	身体の発達
第4回	愛着の発達
第5回	乳幼児期の認知発達
第6回	児童期以降の認知発達
第7回	道徳性の発達
第8回	向社会性の発達
第9回	アイデンティティの形成
第10回	親子関係の発達
第11回	友人関係の発達
第12回	キャリア発達
第13回	発達の遅れやつまづき
第14回	現代の教育問題と発達心理学
第15回	総括

事前学修	2時間	授業時間内に指示する課題を行うこと
事後学修	2時間	授業内容を復習し、次の授業の事前学習との連続性を意識する
フィードバックの方法	UniversalPassportによる理解度チェックを行い、翌授業時間内に全体に対しコメントする	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	40%	内容の理解度、論理性、オリジナリティなどを基に総合的に評価する
上記以外の試験・平常点評価	60%	授業への積極的な参加度、貢献度などにより評価する
定期試験	0%	実施しない

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
主体的に学ぶ発達と教育の心理学	高村和代・安藤史高・小平英志	ナカニシヤ出版	978-4-7795-1654-2	なし
参考資料				